

令和 5 年度 園評価書

園番号

57

園名 清水待機児童園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A : よくできている B : 概ねできている, C : あまりできていない, D : できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
愛されてのびのびと育つ子	安心して、自分の思いを表現する	・子ども一人一人が、ありのままを受け止めてもらい、自分の思いを言葉やしぐさで表現している	保育者が子ども一人一人の思いに寄り添い、関わることで言葉や仕草で自分の思いを表現する姿が多く見られるようになった	A			<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの思いの表現の仕方が一人一人異なるので、一對一での関わりを十分にしていく ・子どもの様子や保護者から聞き取った情報の共有を今後も続けていく。子どもが“もっと”ワクワクするような環境を作るために、園内研修で子どもの見取りを行い全職員で共有したり、園庭環境についてクラスリーダーで話し合ったりする ・毎月新入児が入ってくるので、個々の生活リズムに配慮しながら、その子に合わせた園生活ができるようにしていく
		・ワクワクするような環境の中で、子どもが自ら関わり遊んでいる	子どもの年齢発達や興味関心に合わせて遊びや玩具を提供した。子どもが楽しんでいることが更に楽しくなるよう環境を再構成することで、自ら好きな遊びに進んで関わる姿が見られるようになった	B			
		・生活リズムが安定し、気持ちよく一日を過ごしている (新入児は、個々の生理的なリズムに沿った生活から少しずつ安定していく)	新入児は無理なく慣らし保育を進めながら、連絡ノートの内容や保護者の聞き取りから生活リズムを把握し、子ども一人一人に合わせて丁寧に関わることで安定した生活を送ることができている	A			

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 子ども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・子ども一人一人の発達や個人差に配慮した個別計画による保育を実施している	毎月、担当児の発達や興味に合わせた個別計画を作成しクラス担任間で共有し、計画に沿って保育がなされている	A		<ul style="list-style-type: none"> ・家ではなかなかできないことを園で経験させていただけ、子どもにとっても良い経験、刺激になっていると思います。ありがとうございます 	子ども一人一人の発達や個人差、興味を考慮し、個別計画を作成し保育していく。また、クラス体制が毎月変化し、担当が変わるので、引き継ぎを丁寧に行っていく
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・在園時間の異なる一人一人の子どもの生活リズムを保障している ・子どもの思いに寄り添い、早番、遅番時の保育内容を工夫している	保護者との情報共有を大切にし、一人一人の子どもの生活リズムを保障した関わりをしている。新入児が早番番になる時に保育の仕方や玩具の見直しなど、職員同士で相談しながら進めている	A		<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートを楽しみにしています。ぎっしりと書いてもらえて嬉しです。ありがとうございます 	在園時間や生活の様子に合わせた保育を進める中で、一人一人の生活リズムを整えていく。園児の入園に伴い早番番の人数が変動するので、年齢に合わせた玩具や環境、職員体制をその都度見直していく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの発達や興味関心に沿った玩具や教材の提供、自然を生かした環境の工夫を行っている	子どもの発達や興味関心に合わせて、その都度玩具を入れ替えたり、新しい教材を提供したりしている。また、季節の自然を遊びに取り入れ、計画的に散歩に行ったりしている	B		<ul style="list-style-type: none"> ・初めての園で、親と離れた子どもの園での様子を連絡帳やお迎えの時に伝えてくれるので、安心して預けられます 	室内、園庭の環境について、定期的な見直しを行い、子どもの発達、興味に合った玩具の提供をしていく。また、自然を生かした環境についてアイデアを出し合っていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・避難訓練、不審者訓練を様々な想定で実施している。事故防止のためのヒヤリハットを記録し、職員間で確認と改善策の検討周知をしている	毎月クラス体制が変化するため、クラス内で避難訓練時の対応について話し合いを行い、訓練を実施している。ヒヤリハットは色々な職員で改善策を考えることで共有しやすくなった	A			色々な場面を想定した避難訓練、不審者訓練を行う中で、課題を検討し、改善していく。ヒヤリハットや怪我の記録をし共有することで職員が安全な保育を心掛けていく
3 健康管理・指導	(1)健康教育の充実	・年齢発達に応じた基本的生活習慣(食事、排泄、清潔、睡眠等)が身につくよう家庭と連携しながら一人一人に合わせた援助をしている	家庭での様子を聞きながら、一人一人に合わせた関わりや援助を丁寧に行うことで、無理なく基本的生活習慣が身につくようにしている	A			引き続き家庭での様子を丁寧に聞き取り、フリー職員にも情報を共有し、一人一人に合わせた関わりや援助ができるようにしていく
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・個々の発達や特性を理解し、援助の仕方を職員間で共有し保育している ・必要に応じ、専門機関との連携を図っている	子ども一人一人の育ちや特性を職員会議を通して、職員間で共有することで、クラス担任以外の職員も同じ支援ができるようにしている	B			子どもの特性を共通理解し、変化があった時は全職員に周知し、同じ支援ができるようにしていく。援助の仕方については、ケース会議を設けみんなで考えていく
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・一人一人が自分の役割に責任を持ち、協力して園運営が進められている	職員一人一人が自分の役割を自覚し、責任を持ちながら仕事を進めている。他の職員とも協力し連携を取りながら園運営が進められている	A			引き続き一人一人が自分の役割に責任を持って取り組んでいく。また、分掌の担当者を中心に全職員で進めていく意識を持つ
6 研修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「子どもがワクワクするような環境づくり」を共通理解し、手立での検証を行い改善しながら保育が進められている	写真を用いて、子どもの姿から育ちや興味関心について職員間で意見交換をすることが子ども理解につながった。研修後にまとめた研修日よりや掲示物を通して振り返ることができている	A			日々の遊びの変化を捉え、リーダー会議で環境図を使用しながら環境構成に取り組んでいく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・子どもの発達や興味関心に沿った、ワクワクするような環境が構成されている	日々の遊びを捉え、年齢発達や興味関心に合わせて、園庭やクラスごと室内の環境を定期的に見直し、“ワクワク”を意識し環境作りをすることができた	B			子どもの発達段階や興味関心の見取りは引き続き大切にしていく。手作り玩具を活用し、ワクワクするような環境作りに取り組んでいく
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・保護者と保育者が子どもの育ちを共有し成長を喜んだり、伸ばしたいところについて共に援助したりしていく	日々の連絡ノートや送迎時の会話を通して、一人一人の子どもの様子を丁寧に伝え合い、育ちを共有した。保護者に合わせたコミュニケーションを意識するようにした	A			今後も送迎時や連絡ノートで子どもの姿や成長を保護者に知らせるようにする。また日々の遊びの様子を写真を入れ掲示することで、保護者にわかりやすく伝えるようにしていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣の園児との交流の機会を設けている ・公開保育を実施すると共に、他園の公開保育に参加し、交流を図って	2歳児が辻子ども園との交流を行っている。10月に公開保育を実施。他園の公開保育には積極的に参加し、情報交換をしたり、学びを自園で活かしたりすることができた	B			今年度同様、職員は近隣の公開保育に積極的に参加し学びを自園の保育に活かしていく。近隣の園児との交流は行事の時など積極的にしていきたい
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・待機児童解消のため、積極的な受け入れをしている ・園庭横を通行する方、散歩時に出会う方に挨拶や会話をするなど交流を重ねている	子育て支援課と連絡を取り合いながら、職員の体制を整え、積極的に子どもの受け入れをしている。園庭の横を通行する方、散歩時に出会う方には職員が挨拶をすることで子どもも挨拶を真似たり、手を振ったりして交流している	A			来年度も職員の体制を整え、子どもの受け入れをしていく。職員は引き続き地域の方との交流を大切にし、その姿を子どもにも見せていく